

## 令和7年度 議会運営委員会行政視察報告書

- 1 参加委員  
 (委員長) 長谷川由美  
 (委員) 花田慎 (委員) 藤村優佳理 (委員) 木山耕治 (委員) 新倉真二 (委員) 岡崎進  
 (委員) 水島誠司 (委員) 菊池雅介 (委員) 山崎広子
- 2 欠席委員  
 (副委員長) 藤本恵祐
- 3 視察日時  
 令和8年1月26日(月曜日) 午後2時00分から午後3時30分まで
- 4 視察先  
 島根県浜田市
- 5 視察事項  
 (1) 政策討論会の実施・政策討論会を経ての政策提言と条例制定について  
 (2) 議会運営における LINE WORKS の導入について
- 6 視察概要

	(担当 木山 耕治)
視察先選定理由	島根県浜田市議会は、全国に先駆けて議会改革に取り組み、特に委員会単位での「政策討論会」を核とした政策立案サイクルを確立されている。住民との意見交換会から得た課題を議会内部で徹底して議論し、具体的な政策提言や議員提出議案へと結びつける一連のプロセスは、議会の存在意義を示す先進的なモデルである。
取組の背景と概要	<p><b>(1) 政策討論会の実施・政策討論会を経ての政策提言と条例制定について</b></p> <p>浜田市議会では、議会基本条例第11条に基づき、市政に関する重要な政策や課題に対して議会としての共通認識を醸成し、合意形成を図るための「政策討論会」が制度化されている。これは、単に議員間で議論を行うだけでなく、全議員参加による「議会としての総意」を形成することで、執行権を持たない議会が政策を実現させるための重要な手段となっている。</p>
議員提案条例制定へのプロセスと本市への示唆	<p>令和元年には、この仕組みを活用して「浜田市認知症の人にやさしいまちづくり条例」が制定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門的な調査研究：所管の福祉環境委員会において、先進地視察や関係団体（社会福祉協議会、家族の会等）との意見交換、合同勉強会を9回にわたり重ね、条例案の骨子を作成している。</li> <li>● 全議員による熟議：委員会の案を全議員が参加する政策討論会に諮ることで、一部の議員だけでなく「議会全体の総意」として昇華させている。</li> <li>● 実効性の向上：「全議員のお願い」という形をとることで、執行部側の受け止め方が変わり、予算化や組織変更に繋がりやすくなる効果が確認されている。</li> <li>● 本市の課題：茅ヶ崎市においては、これまで議員発議による条例制定の実績が一度も存在しない。浜田市の事例は、専門的な調査（委員会）と全体合意（討論会）を組み合わせる仕組みが、条例制定の大きな原動力になることを示している。</li> </ul>

<p>市民参画と情報の透明化</p>	<p>浜田市は「地域経営のための議会改革度調査 2024」において、全国 1,544 議会中総合 2 位、「主権者の参画」分野で全国 1 位の評価を受けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●資料の事前公開：会議資料は開催 3 日前までにホームページで一般公開され、市民が議論の内容を事前に把握できる環境が整えられている。</li> <li>●審議結果の可視化：各議員の賛否だけでなく、反対した場合にはその「理由」までホームページで公開されており、徹底した説明責任が果たされている。</li> <li>●多角的な発信：年 4 回の定期発行に加え、発行のない月にはウェブ版「はまだ議会だより mini」を年 8 回発行し、市民への情報提供に空白期間を作らない工夫がなされている。</li> </ul>
<p>本市議会に向けたアクションプラン (案)</p>	<p>議員提案条例の実現に向けた「討論」の場の構築に関する検討：本市初の議員提案条例制定を目指し、委員会の調査結果を全議員で共有・熟議し、議会全体の合意形成を図る「政策討論会」のような場の設置について、その運用ルールを含め検討の余地がある。</p>
<p>導入の経緯と目的</p>	<p><b>(2) 議会運営における LINE WORKS の導入について</b></p> <p>事務局と議員間の連絡体制を効率化するため、令和 5 年 11 月からビジネスチャットツール「LINE WORKS」が導入されている。本市（茅ヶ崎市）が導入している。「SideBooks」が資料の閲覧・管理を目的としているのに対し、浜田市では「迅速な意思疎通」と「事務作業の軽減」に特化したツールとして併用されている。</p>
<p>具体的な有用性と導入効果</p>	<p>現状、本市では事務局と議員のやりとりを主にメールで行っているが、浜田市では以下の点で劇的な改善が見られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●既読確認機能による負担軽減：事務局にとって最大のメリットは、誰がメッセージを読んだか一目で判別できる点にある。これにより、未読者に対してのみ個別に連絡をすれば済むようになり、電話による追いかかけ業務が大幅に削減されている。</li> <li>●アンケート機能による日程調整：会議の日程調整や意向調査にアンケート機能を活用することで、事務局の集計作業が容易になり、業務効率が大幅に向上している。</li> <li>●情報の整理：「迅速な連絡（LINE WORKS のトーク）」、「全議員への一斉通知（掲示板）」、「スケジュール共有（カレンダー）」と機能を使い分けることで、情報の埋没を防ぐ運用がなされている。</li> <li>●低コスト運用：浜田市では「フリープラン」を利用しており、基本料金 0 円でこれら的高機能な環境を実現している。</li> </ul>
<p>本市議会に向けたアクションプラン (案)</p>	<p>双方向コミュニケーションツールの刷新に向けた検討：SideBooks（資料管理）と LINE WORKS（事務連絡・調整）を役割分担させ、事務局の負担軽減と情報伝達の確実性を向上させるため、チャット形式への移行および試験的導入の必要性について検討する必要がある。</p>